平成29年度第２回県北広域振興圏地域運営委員会議　会議録

日時：平成29年10月17日（火）13：30～15:30

場所：二戸地区合同庁舎１階大会議室

１　開会

【和山 参事兼経営企画部長】

定刻となりましたので、ただ今から、平成29年度第２回県北広域振興圏地域運営委員会議をはじめさせていただきます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます経営企画部長の和山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、はじめに、八重樫県北広域振興局長から御挨拶申し上げます。

２　挨拶

【八重樫 局長】

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

平成29年度は、県北広域圏域の目指す将来像の実現に向けて、３点に取り組んでいるところでございます。１点目は「震災からの本格復興と圏域の地域特性を生かした振興」、２点目は「人口流出防止・定着促進」、３点目は「台風 10 号災害からの復旧・復興」、また、復興については、第３期復興実施計画の初年度として、多様な主体の参画や交流、連携により、復興事業の総仕上げを視野に、復興の先を見据えて取り組んでいるところでございます。

本日は、平成31年度からの次期総合計画の策定に当たって、地元の底力と様々なつながりを最大限に活用できるよう、県北地域全体の復興・振興に向けて、地域運営委員の皆様の専門的な立場での忌憚のない御意見・御提言を頂戴できれば幸いでございます。

それではお時間のないところでございますが、皆様よろしくお願いいたします。

３　議題

【和山 参事兼経営企画部長】

議事に入ります前に、配付資料の確認をさせていただきます。本日配布しました資料が、次第、出席者名簿、座席表です。事前にお送りした資料は、次第の下の枠で囲んでありますとおり、資料１～資料３となっております。恐れ入りますが、足りないものや、お持ちでない資料がありましたら事務局まで申し出ください。

それでは、議題に入らせていただきますが、県北広域振興圏地域運営委員設置要綱第４の規定により、運営委員会議は局長が主宰することと定められておりますので、以降は八重樫局長が議事進行いたします。

【八重樫 局長】
それでは進めさせていただきます。
本日は、次期総合計画策定に向けた取組について意見交換を予定しておりますが、はじめに、政策地域部政策推進室 小野政策監から「次期総合計画について」説明いたします。
その後、委員の皆様から、説明資料について、あるいはその他ご意見を頂戴できればと考えております。
また、次期総合計画策定にかかる幸福に関するアンケートをお配りしておりますので、会議終了後に提出いただくようお願いします。
それでは「次期総合計画策定について」説明をお願いします。

【小野 政策監】
（資料１「次期総合計画の策定の方向性について」説明）

【八重樫 局長】
それでは、ただ今説明いたしました内容について、委員の皆様から、それぞれの立場で御意見を頂戴できればと考えております。
なお、資料３については、前回の会議でいただいた意見について、各部室からの回答をまとめたものとなっており、平成 30 年度以降の施策立案作成の参考とさせていただきます。
それでは、名簿順に間委員から３分程度を目安に御意見をお願いできればと思います。

【間 委員】
個人的に私、色々災害とかあったわけですが、そろそろですね、まだできていない、まだ、ということではなくて、ここまでできたよという形での発信の仕方に変えるべきではないかなと思います。まずいつまでも過去を引きずっているようなイメージじゃなく、おかげさまでここまでできました、こういうスタンスをとっていった方が相対的には全県民がアイデアを出したり勇気付けられる、そういうイメージが作られるんじゃないかなと思います。

【八重樫 局長】
今の総合計画でここまでできましたという点をお示ししながらということですね。

【間 委員】
はい。そういうふうなスタンスを前面に出していくという形がいいんじゃないかなと私個人は思います。

【八重樫 局長】
計画の進捗状況についても公表については色んな形で公表していますよね。

【小野 政策監】
今、間委員からお話をいただきましたように、次の総合計画を作るに当たっては、今のいわて県民計画の 10 年間、これで何ができたかというようなところについては、しっかりと総括していくことが重要じゃないかなと思います。これから次の計画を作るわけですけれども、そこと併せて様々なことに、この 10 年間の中では人口問題でありますとか、全国との県民所得の格差の縮小でありますとか、あるいは医師確保の関係でございますとか、様々、産業、振興、経済の部分で進めて参りましたのでそこでどういうふうなことをしていくのか、あるいはどういった面について引き続き取組を次の 10 年に引き継いでいく必要があるのかということについてもしっかりまとめて、示しながら計画づくりを進めたいと思います。

【八重樫 局長】
続きまして、安藤委員よろしくお願いします。

【安藤 委員】
私の方は仕事が漁業なので、漁業のことなんですが、ほぼ復旧・復興の方は岩手県の協力もあって、施設の方も回復して、規模的にはもうちょっと時間がかかりそうですが、みんな元のように仕事はできているという感じです。今の課題である後継者問題がどこに行っても聞かれるもんで、やっぱり次の世代がどの地域にもいないと、我々の世代でも減っていく一方の様子で、各市町村とか漁師の人のお話を聞くんですが、中々やっぱり聞いても今はもう帰っていったとか、そういう状況なのでそれが今ちょっと課題となっています。
夏に１次分散というほたて養殖の作業をフェイスブックで施設ボランティアサポーターという形で募集したんですけど、３人ほどお手伝いに来ていただける方がありまして、やっぱり漁業に触れる機会を持っていただくっていう、少しでもそういう機会を増やしていこうという取組を始めていました。やっぱりやってもらうと非常に興味、目を輝かせて、初めての作業で楽しそうにやっていたのがあります。全く興味がない人はゼロではないんです。今後まだまだ発信とかそういうものが不足しがちなので、そういう方にも力を入れていきたいなと思っています。

【八重樫 局長】
水産部長、後継者関係について取組はどんな状況ですか。

【石田 水産部長】
はい。後継者対策は安藤さんがいらっしゃる野田村と一緒に制度の設計とか住むところまでの支援措置などもやっております。一方でやっぱり入ってくる方が相対的に少ないので、漁業体験などそういう機会を作って一人でも多く定着できるように一緒に進めていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

【八重樫 局長】
漁業の関係の計画についても、幸福の領域関係と絡めて色々な形で計画すると思いますが、どういったイメージで計画を掲げるのでしょうか。

【小野 政策監】
先ほどご説明致しました幸福の 12 の領域でございますが、漁業といったことで考えますと、仕事面、それから収入の領域が、直接的には当てはまるという風に考えております。

【八重樫 局長】
19 ページですか。

【小野 政策監】
そうですね、シートの 19 のところです。ただ、基本的には産業ですから仕事・収入に直接的に関係すると思いますけれども、それに加えて歴史文化の面、コミュニティの面、安全の面があるかと思います。今までの県の施策については産業の振興、その中で農業・水産業・林業といったような切り口でやってきてますけれども、それはそれでその政策の柱に寄るような形で考えてますけども、それに加えて一人ひとりの幸福とのつながりがどうなのかっていうのをそれぞれについて横にという風に考えると、当然仕事・収入がありますけど、例えば漁業に携わっている皆さんの子育て、ここは何か課題はないのかと。ここに関して何か行政として、あるいは地域としてっていうことはあると思いますけども、手当することはないのか、あるいはコミュニティという関係はどうなのか、色んな課題の中で状況が見えてくると思いますので、こういった次の 10 年の取組を考える上での切り口と言いますか、視点としてこういった 12 領域を活用していきたいと思いますので、まさに 12 領域の中で、まったく関係のない分野は実は無いと考えています。そこで地域における議論も進めて施策を掘り起こしていきたいという風に考えています。

【八重樫 局長】
そうですね、一つとか二つとかっていうことではなくて様々な観点からということですね。

【小野 政策監】
そうですね。

【八重樫 局長】
はい。続きまして大﨑委員よろしくお願い致します。

【大﨑 委員】
この資料を拝見して、この幸福というのを見たときに真っ先に思い出したのは確か 1990 年代に政府の方で都道府県別の幸福度ランキングっていうのを調査して発表していた時期があると思うんですが、たしか５、６年ずっと連続で埼玉県が最下位を続けて、当時私はちょうど埼玉県に住んでいたんですけども、その数字と住んでいる者としての開きがあるというか、こういうのってどんなものさしで計るかによってすごく幸福の基準って難しいと思うんです。このアンケートを拝見すると、ゆくゆくはこういうアンケートを実施して数値化などをなさって、今こういう状態という数値をとられるのかどうかは分からないんですが、そういう資料を作る所も大事は大事なんですけれども、そうすると数字の中にいろんなものが隠れてしまうという、ちょっとそこら辺のところも危惧するところもあるなという風に思います。おそらく埼玉県が最下位っていうのは、今離れてみて思うとすごく埼玉県ってすごく恵まれてたなって思うんですよ。東京への通勤圏で東京都の良いところも享受できて、ちょっと引っ込むと水田もあり、畑もあり、すごく大規模で農業や林業やっている人もあり、海がないっていうのをよくよく自虐で使われますけども、海がないということで意外と自然災害も少ない。なのでこういうので県民性っていうのがすごく表に出ることなのかなという風に感じました。もし、こういうアンケートを取られたのであれば、行政として関われるのであれば、住みたいかどうかっていうことなのかなという風に感じました。

【小野 政策監】
大﨑委員がおっしゃるようにまさに横の隣のところを見て、そこと比較になってしまったんですね。おっしゃられた埼玉県のようにすごく何年も最下位という知事さんのお話も。そういうこともあって消えてしまったっていうのがあるんですけど。

【大﨑 委員】
知事が抗議したっていう。

【小野 政策監】
そうですね。ですので本県ではそういうことにはしたくないです。むしろ同じ地域で、時間軸で前と比べてどうなのか。さらに言うと、この様々なデータを総合化してしまうと、委員がおっしゃるように見えなくなってしまうんですよね。そうではなくて、大切なのはあなたがどういう点で幸福だと感じていますかというふうな、総合的な中身が分からないということではなくて、それを感じる、それを考える上で何がキーになっていますか。その中にどういう課題があるのかという掘り起こしをしてですね、もしも幸福が下がるとすれば何が問題なのかということです。まずは今の状況を守ります。さらに高める上で何か鍵になるものはないのか。掘り起こしのための道具にするとか。荒川区の方の研究の際に東京大学の月尾先生という方がアドバイザーになっていて、荒川区の場合はこれはある意味幸福度のカルテ。何かその地域で問題がうまくないことが起こるとその指標に絡んでくる。何がダメなのか、子育てで何か問題がないのか、そういったものを掴むのがこの幸福ですよと荒川区では話をしております。ですので我々は伝えるときに、その縦と横の比較を行って、「我々は日本一だ」などという話ではなくて、何が課題なのか、もっとそれを高めていくために必要な部分はどこなのかということを発見する、そういったことに使っていきたいというふうに考えております。

【八重樫 局長】
岩手県は、先ほど説明があったように特徴があるんですね。ソーシャルキャピタルの部分は結構数値が高い。つながりを大事にするところの数値が高い。

【小野 政策監】
強みというか、つながりが強みになりますのでそれを大切に幸福感を得た方がいるということですね。

【八重樫 局長】
よろしいでしょうか。続きまして大沢委員の方からよろしくお願いいたします。

【大沢 委員】
幸福ということで非常に抽象的なところで難しい面もございますが、やはり楽しくあることが第一なのかなという風に思います。仕事をする上でも、生活をしていく上でもですね。地域の魅力、県北地区、振興局さんの方で実数でも食関連の産業が筆頭になっているという感じで食関連の産業であり、私の従事するアパレル産業と思ったところで地域の魅力を発信して、より地域の名前でブランド化といいますか、地域の名前も前面といった形で、全国なのか世界的に出来ればと思うんですが、世の中に知ってもらいながら経済的な部分も企業としてと考えております。人口の部分の減少については、出生率から全国的に

共通の悩みであるというふうに思います。岩手県全体が県北の方が上回っているということで、私、出身が東京なんですけれども、人口の受入れがやはり少ないのかなというふうに実感するところであって、いわゆる流入ですね。人口流入というふうなことで。東京の同級生というか同世代で東京の場合は人の移動がめまぐるしいですから比較にはならないですが、100 人いて１人か２人しか残る地域ではない。東京と練馬区ですけどね。そういったところでありますので、首都圏と比較することは比較にならないと考えますが、魅力ある地域であれば人口の流入というところを県外からでも県内からでもそういったものも非常にこれから大事な課題であるのかなという風に考えます。

【八重樫 局長】

練馬区っていうのは 100 人のうち２人しか残らないということですか。

【大沢 委員】

そうですね、地元に残るのはそれくらいになってます。ただ近郊には、埼玉なり神奈川なり千葉には戻る方が多いですが、実家に残るっていうと 100 人に２人ぐらいということです。

【八重樫 局長】

今、お話がありました地域につきましては地域計画がありますけれども、幸福度も絡めた形で策定するという感じですかね。全体として。

【小野 政策監】

総合計画の中では、長期ビジョンの中で地域の今後 10 年、地域振興の展開方向も作りますし、４年間のアクションプランも作ります。幸福につきましては、長期ビジョン全体の中でやりますので地域ごとに異なる幸福というのがあれば中々大変な話でありますので、そこは全体として考えてまいりたいと思います。アクションプランの中でもどの程度幸福に関することを詳しく記載するかは今後考えていきたいと思います。あと人口流入についてですが、これにつきましては岩手県の場合は特に 18 歳から 22 歳前後の若い人達、そのタイミングで県外に転出されるのが全体の中で非常に多いのが特徴でございます。例えば、福岡県の場合ですと 18 歳の段階では転入、学生さんとかですね、たくさん増えてきて一旦社会増です。この年齢層は終わった後に学校を卒業した後で出ていくというような計算です。岩手の場合は 18 歳のところでドーンっと出ていって、また 22 歳前後でさらに出ていくというような感じです。そこが非常に全体の転出流れが大きくなっているといったところですので、今、お話がございましたように、その層の人達をどういうふうに地域で受け入れるか、あるいは残っていただくか、また一旦出た方々を、どういうふうにその後、地域で活躍していただけるようにするかといったところが非常に重要な部分でありまして、

県それから各市町村もそうですけれども地方創生等の取組を進めております。ただやっぱり大きな課題として東京一極集中といったものがありまして、それが中々こう、勢いが止まらないどころか、ずっとやはり東京一極集中の状況が続いている。そこをどういうふうに取り組み、対応していくかというのが中々それぞれの地域では難しいところもありますので、まず出来る地域の魅力を高めてそういう人達が仕事、暮らしに活躍していただけるところを作るといったところと、やはり国の政策としての一極集中是正に向けた取組をしっかりやっていただけるようなところ、２つが重要になってくると思います。

【八重樫 局長】

岩手県は、18 歳のところは本当に減っているんですね。地方はそういう特徴なんだと思うんですけれども。よろしいでしょうか。続いては小野寺委員お願いします。

【小野寺 委員】

今この説明をお聞きしたり、私の地域の状況なりと非常に恥ずかしいなと思いながらお聞きしてます。というのは一つ前のいわて県民計画、その 10 年間その計画に基づいて昼も県の施策評価が出てきたという話を聞きまして、そういうところの中で、特に我々が住んでいるところ、一般家庭でも県の情報として、こういういわての県民計画っていうのはあらゆる所で情報提供をいただいて、こういう委員になってこういう所でまた情報はいただいて、思っているところだと思いますが改めてこういう計画が 10 年間の中でいただいていましたよ、というと、あれ、どこにどういう風に私たちは住民として参加できてきたのかな、どういう形でもってここの部分を推し進めてきたのかなというふうな感じで、もっと身近な情報提供なり身近な我々が参加している部分があっても、行政さんだけで動いているってことではなくてできるのかなというふうにお願いできればなと思っておりました。

この中でも前回は 10 年間、それでまたこれからの 10 年間ということで私もそこそこの年齢を過ぎておりますので、今後 10 年間のその計画の中で我々がこの年代になった時に、どうしても要はポジティブの方向の発展、発展、というよりもどちらかというとネガティブに考える方が強くなってきて、非常に恥ずかしいところではあるんですが、我々もそういう立場にいながらこういう幸福と考えた場合に、なかなか立場上の責任の幸福と地域、コミュニティの幸福は若干ちょっと違いがあったり、よりまた岩手県北地域においても以前に比べてコミュニティっていう部分が広域になっているような気がします。私の住んでいる町も合併はしておりませんけれども、いろいろな経済を含めましても広域の地域だけでの経済回復は無い、やっぱりもう少し県内をひっくるめたところ、もしくは東京中央などでも、我々も田舎にこの地域、県北にいながらお付き合いをさせていただいている関係ですので、という部分の中で一つは我々の責任として、今回幸福と、幸福度と言った場合に我々も、私の立場から言いますとこの中にもありましたけれどもやはり県北地域、経済的にもっともっと余裕があるその収入を高めるような施策というのが必要になってくるの

ではないかなと思います。私たちもその一端の中でやはり事業継承をしながら皆さんの幸福に満足できるような経営状態にもしていかなければならないかなというふうに思いますし、個人的にはこれから見ると、この地域でいくつも課題になっておるのは、私も今息子が同居していますけれども、できるだけ今後息子たちには面倒はかけたくないなというふうに思っております。そうするとやっぱ高齢化になった時の、次の私たちの高齢化になったときの時代の福祉の充実やらそういうことの部分が、非常に要はこの地域でもウェイトを占めてきますし、重要課題になってくるのではないかなとそういうところも幸福度というところを合わせると、変な話ですけれども私の幸福度は何かと言ったら息子たちに迷惑をかけないで老後の生活を送れるのが要は一つの私の幸福度になるのかなと、あまりにもストレスを感じないで行ければいいのかなという思いでおります。そういうふうな施策で持ってくると、進めていただければなというふうに感じています。

【八重樫 局長】

幸福度のシート 16 にもありましたとおり、健康・家族・家計と家族の部分はネック、大きなウエイトを占めていますね。あとはお話がありました身近な計画、情報提供というお話がありましたけれども、この点についてはいかがでしょうか。

【小野 政策監】

今の県民計画の取組につきまして、情報が県民の皆様一人一人に届いていないということについては反省しなければいけないと思いました。中々その県の広報番組でありますとか、あるいは、いわてグラフといった中で県民計画の進捗状況などについてもご説明しているところではありますけれども、それだけだとやはり十分な情報ではないと思います。

まさにこういう地域の運営委員会などの中でもですね、今どうなっているのか、これからどうなっていくのかをしっかりご説明する必要があると思いますし、また先ほどの新たなツールも色々出てきておりますので、そういったものも活用しながら、情報をできるだけお届けするように工夫をして参りたいと思います。

【八重樫 局長】

いわてグラフについてはご案内のとおり、全戸配布ということでお手元には届いているかとは思うんですけれども、中々ですね、チラッとは見ていただけるとは思うんですけれども深い所までは中々いかないと。あとはテレビ番組なんかはポイントごとに出したりはしているんですけれども、いずれ引き続き工夫が必要ということですね。

小野寺委員よろしいでしょうか。それでは佐藤委員お願いいたします。

【佐藤 委員】

今のお話を伺ってまして、幸福の領域ということで、とても大きいような、なんだか難しいような考えでいました。先ほどお話を伺って、このアンケートを今書いてみたんですけれども、やや幸福だと感じているというところにマルをしました。この中で考えてみると、この 12 の領域のところで以前と比べてどうだったかっていうことで考えますと、私の子どもを育てた時代とは違って、今は子育て支援が充実していてとても今は子育てがしやすいだろうな、仕事がしやすい職場になったんだなっていう風な形で若い人達を見ています。なのでそういうところから来るところでも、前と比べるといいな、とても安心して安全でこの地域はいいなというところを感じているのが私です。収入のところを言いますとそこはやっぱり問題はあるかとは思うんですけれども、子育て支援がすごく充実したっていうところ、充実できると感じられるんですね。私が小さい時は、こんな苦労したんだけども今は本当に企業がバックアップして職を辞めないでそのまま継続できている。介護の施設でも働けているというところに私は本当にいいことだなと思ってます。

子育て支援等の充実により仕事を続けていく環境は改善してきているので、若者の地元就職、定着の様々な取組により地元への就職者が増えることを期待していますが、介護施設では職員不足が続いています。

先日の一戸町の居宅介護支援事業所管理者会議で話題になった事は、二戸管内では、まだ介護職員不足が続いているとの事です。

介護職員の不足からくる問題であった事でお話しさせていただくと、入所施設内の職員不足、子育て支援もあり、夜勤業務の職員が手薄になるなどですが、各種資格を持った居宅のケアマネージャーが入所施設へ移動するケースも増えています。

私の住む一戸町でも居宅介護支援事業２事業所、ケアマネージャーが不足し、これは、移動、退職等も含みますが、利用者を他の事業所に変更していただいたケースが出ています。サービスを継続できましたが、馴染みのケアマネージャーの変更など事業所側の問題で在宅で生活している皆様には、御迷惑をお掛けしたことも出てきています。

同様に、二戸市、九戸村では介護サービスを申請しても、居宅介護支援事業所、地域包括センターでもケアマネージャーが不足し、ケアマネージャー待ちがおきているようです。このことは、ケアマネージャーの資格を持った人はいるのですが、施設の介護職員不足から移動等により、ケアマネージャーが不足するという状況になり、不足の原因となっていると思います。

地域包括支援システムの構築に向けて在宅での要となるケアマネージャーが不足していることにも不安も感じます。

介護人材の確保に向けての取組が行われていますが、処遇改善手当金等をさらに検証していく必要があると思います。

【八重樫 局長】
介護を認定してもケアマネージャーさんに来てもらわないと、中々すぐ進まないですよね。

【佐藤 委員】
話は聞こえてきましたのでちょっと難しいなとは思っていました。

【八重樫 局長】
そういったところ、福祉関係のところを。

【佐藤 委員】
そこもちょっともう少しあればなと。

【八重樫 局長】
そうですね。そうすると前段でお話がありました、子育てとか地域の連携とかっていうのは、手前味噌になりますけれども今の 10 年の総合計画の間では良くはなっているような感じですか。

【佐藤 委員】
私は、私の時代と比べると本当にいいなというような実感です。本当に子どもを預けるところはあるし、学童保育も充実している。あと保育料の補助もある。本当にお金もかからず、病気をしても預ける場所もある。あとは機能のバックアップ。以前はやっぱり公務員の方であればある程度バックアップがあったんですが、民間の方であれば、これはもう仕事を辞めなければならないかなと思う時もあったんですけれども今は続けられる。本当にこれはありがたいことで、お子さんを見ると、私は１人だったんですけれども今若い子を見ると２人、３人っていう風な形で増えてはきているのかなと思います。子育てはすごく私は充実して、一戸町なんかに住んでいただくと色んな補助があったり、色んなところが手厚いなと感じているところです。

【八重樫 局長】
そういった良い面も当然あったと、まあ課題もあるけれどもっていうことですね。

【佐藤 委員】
そこを実感しているところですね。比べてみるとというところです。

【八重樫 局長】

そういったところを今後生かして地域づくりですね。はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。続きまして十文字委員お願いします。

【十文字 委員】

幸福ということで、この言葉に文句は何もないっていう感じがします。ただ日本全体がやっぱり幸福追求っていう状況じゃないかなと、テレビを観てても、このブータンの件から始まってそんなイメージの中で他の自治体と同じようになってしまって存在感が薄まってしまう恐れがないことではないのかなと。岩手もどこも同じなんですけれども、人口減を抑えるためにはもうちょっとやっぱり個性的な感じのイメージを出していくべきじゃないのかなと思っております。大沢さんが話していましたけど、私もなんかこうワクワクドキドキ、そういうふうななんかもうちょっと若いノリも欲しいかなと。ただ幸福というのじゃなくて今から考えていくのかもしれないですが、いままでの弱い所をうんと強くする、幸福の中での細かい所でのそういうことをするのか、それとも強いところをさらにナンバーワン、断トツの日本で一番にしていくのか、なんかそういうふうな具体的な意味合いが欲しいなといった話ですが、ブータンを追い越す、岩手だけはブータンを追い越すとかそれくらいの目標じゃないですけれども、具体的な方が面白いんじゃないかなというふうには思います。現実にできるのか分からないですけど。

あと幸福についてちょっと頭を巡らせてみたんですけど、やっぱり幸福感というのは、私は不幸な経験があるから幸福感を実感できるんじゃないかなと思うんですね。そういう意味では岩手県は昔に結構被害に見舞われたり、特にこの県北のエリアとかそういうのを生き延びた人達がここに今生きているわけで、そういうふうなただただ温かい、生ぬるい幸福を感じるんじゃなくて岩手にはちょっとこう、不幸を経験したから幸福に感じるみたいな、なんかそういうストーリーがあってほしいなという気がしました。

あと私もアンケートを今書いてみたんですけども、自分で決めて自分で実行するというのが一番とにかく幸せなことだなと思うんですね。じゃあ岩手県人ってどんな状況なのかなと、意外と自分で決めるっていう人って少ないんじゃないかなと思うんですね。なんかこう流されてなんとなく今に至ってるって気がする。女性はどうか分からないですけど、男性は教育のレベル、教育のところでやっぱり自分で決めて自分が実行するっていう風な親の責任を生むんだというふうな感覚を醸成できれば、なんか産業も強くなるようなイメージがあります。

以前青年会議所をやっていたんですが、とにかく地元で地元には何もないという、ありきたりな当たり前のせりふがどこの地域にもあるとは思うんですけど、だから不幸だという感覚がすごくあったと思うんです。やっぱりこうマスコミで取り上げられてたり、ケンミンショーだとかそんなものを取り上げられて、遠くからほめる部分が聞こえてくると、なんとなく幸福な感じ、感じられるっていうのが人間じゃないのかなと思って。まあそう

いう雰囲気を作っていくことで今まで岩手県人は、あまり地元のことをほめられたことがないと思うので、そういう風なことをやっていけば劇的にマイナスからプラスになっていけるんじゃないかなというイメージを持ちました。以上です。

【八重樫 局長】

ありがとうございます。幸福感については個性的な部分に対しというお話で。イメージとしては、個性的な部分っていうのは例えばどういったことを挙げているんでしょうか。

【十文字 委員】

具体的に何と言われたらあれなんですけど、ただなんか幸福って言われてもそれだけで、それであればさっきのソーシャルキャピタルのところでの、もっと突き抜けたソーシャルキャピタルの断トツ戦略ではないけれども、他とはちょっとは違うんですよというふうなイメージもあってもいいんじゃないかなと。おそらく皆さん、他の県でも他の自治体でも同じように思って国全体が動くんで良い方向だとは思うんですけども、埋没しちゃうっていうのはとにかく考えてやってもらいたいなと思います。

【小野 政策監】

十文字委員からお話がありました、幸福感というのはかなり漠然としたイメージしか今の段階ではないというご意見がございますので、これからの検討の一つのきっかけとして 12 領域を設定したということになりますので、そこから一つさらに掘り下げていくといったことが一点。あとそれからもう一つシートの中で、シートの 25 ですけれども、復興計画に対するイメージの中で、下から３つめの白い丸で、長期的・政策横断的に取り組む重要構想といったものがありまして、ここで、例えば 2020 年くらいの少し先を見てですね、これからどういうふうになっていくのか、様々なリノベーションであるとかそういったところも少し打ち出さなきゃいけないと思いますので、当然その幸福につながる必要があると思うんですけれども、やはり一人ひとりの、あるいは社会の幸福といったところが基本としての質問、じゃあ岩手県は次の長期で何をやっていこうとしていくのか。当然その中には重要なＩＬＣの話がありますとか、それから色々技術とか制度が変わっていく中で、今後、今はできないけれども将来そういった技術的なことがクリアできれば、取組としてあると思いますので、今後はそういうことを検討、中身を考えていくことになります。そういった長期的な観点に立った、岩手の強みをさらに打ち出すとか、そういった構想というものを総合計画の中に取り込んでいきたいという風に思います。

【八重樫 局長】

そこの部分で何か個性的な岩手としての取組というものを打ち出せる可能性があるということですね。それではお待たせしました。田口委員よろしくお願いします。

【田口 委員】

今、幸福ってこう、何の幸福っていうのか、私も何十年、二戸に来て 40 年になるんですけどもここに来た時にここに住むんだと思ったから、ここに骨を埋めると思ったので、そこの地域に馴染んで生活しなきゃならないと、当時 20 代でそう思ってずっと生活して今に至っている。さほど不幸だったなとかっていう思いはないので、幸福だって言えるかなと思っております。それで今私はここにいるのは保健協議会の会長ということで、いつも検診のこととかそういうことを言っているんですけれども、私もこれに書くとすれば健康が一番でマルにするのかなと思うので、これからも健康でなければ幸福感も味わえないっていうことですので、やっぱり健康で過ごすっていうことは全体が幸福だっていうことじゃないかなって私は思います。というのは一家族のことを思っても、みんなが健康でいれば平穏な生活を送れるんですけど、家族の中で誰かが病気したっていう途端に、みんなで生活パターンが変わったりとか、また介護する人が病気になったとか、そういうことを考えるとやっぱり全部が健康、健康でなければ幸福は得られないんじゃないかっていうことで考えております。病気をすると何もいらない、病気が早く治ってほしい、お金も何もいらないっていうような思いになるって、病気をした人が言うからやっぱり健康であるからこそ次の欲望、欲があったりで次のことをやるという意欲が沸くので、私はこれからも健康のことに携わって、みんなで健康で過ごそうという形で地域でもボランティア的に声掛けをしながら生活、これからもあとこれが 10 年計画ですけども 10 年後っていうと私も 80 になります。その頃もまだ元気で生活でき、幸福だなと思って県のこういう計画にはそれぞれの立場の時に目を通しながら個人の幸福って何ですかっていうふうなものには興味を持ちながらこれから過ごせばいいかなと思いましたので、計画は計画としてどんどん進めていっていただければ、その中で自分たちが何をもって幸福かっていうことを県民・市民というか、県民が考えるより自分の健康に対することとか他人を思いやることとかそういうことができていれば、私はお金はそこそこ年金が下がるのは困るんだけども、そこそこもらえて生活できて欲をしなければ、そういう感じも。商売する人達はまた商売する人達で雇用もあったり、儲けもしなきゃならないからまた別な考えがあると思いますけど、主婦的な考えでいれば、やっぱり家族の健康が一番でそれに伴ってあまり不幸を感じないで一緒に過ごせればいいかなと思っております。年いった人より若い人が先に亡くならないような、これから県の取組などもやったり、若い人達の健康が大事だと思う。まず親より先には子どもが逝かないということで健康に関心を持っていただければ、40 代になったらすぐ検診を受けて、がん検診なんか受けても自分の健康を考えてほしいなと思っております。私も息子には検診はちゃんと受けて、早期発見だからという声掛けをしておりますので私はそういう形で幸福度を、県の方のこういう計画に興味を持ちながら生活していきたいなと思いました。よろしくお願いします。

【八重樫 局長】
今申し上げられたとおり、重視している項目ですね。健康状況がというところですね。

【小野 政策監】
岩手に限らず、色々なところで統計をとっているが、やはり第一は健康といったところです。

【八重樫 局長】
特に県では保健福祉部が中心になって。

【田口 委員】
県では脳卒中が多いというのでそれらも取り組んでいただいております。これからもやっぱり健康についての取組をやっていただいて、県は市町村におろしてやっていただければいいなと思います。

【八重樫 局長】
もっとも重要なことですので、新計画ですね、重要な位置を占めると思われますのでよろしくお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。それでは長坂委員お願いします。

【長坂 委員】
農業をやっていて幸福って感じられるって言えば、やっぱり物を作ってて出荷して、おいしいとかそういうことを言われればやっぱり、そこで何となく幸福感がお金もなんだけど、おいしいなって言われると、それが幸福感につながります。ブランドを作るということで、寒じめほうれん草とかそうですけどそういうのも作っている人達は多分それを感じている。だからブランド作りもすごく良いことじゃないかなと思ったり、あとは若い人達というか若い農業者たちが夢を持って語っている時が一番幸福感を感じることじゃないかなと思ったりしています。だからそのダメだダメだ、じゃなくてこれからどうやってこの農業をやっていくんだっていう自分たちが当たり前ながらちょっとずつ前に進んでいったらそれがちょっとでも実現できたときに、この幸福感を味わえるんじゃないかなと思っています。幸福感と言えばそのくらいです。

【八重樫 局長】
いろんな農産物ブランド、それを作るのは結構モチベーションになるっていうかですね。結果として非常においしいっていうのも。

【長坂 委員】
リスクもあったり大変なこともあるんですけど、それがおいしいなとか、うまく売れたなとかそういうことによってやっぱり満足感っていうかっていうのも生まれてくるっていうか。やっぱりただいつも同じようなものを作ってやってるとやっぱりそこでいつもの平凡ような気がして。

【八重樫 局長】
具体的にそのブランドっていうのはどういったものを手掛けているんでしょうか。

【長坂 委員】
手掛けているわけじゃないですけど、我々だったらほうれん草をやってて、ほうれん草の寒じめがそのブランドにしようって、そのやっている時がやっぱり工程を含んでやってみたりとか、作っている中で、他の人とちょっと違うことをやってたと思えば、そこに大変なこともあるんだけど楽しみもあるっていうか、そのような気がして。それを出したときに美味しいと言われればそこで幸福感っていうか、だから何て言ったらいいか分からないけどそういう思いとか語り合いとかそういうとこがすごく大事なような気がします。

【八重樫 局長】
やっぱり個性的なっていうかブランド化したものを売るっていうのは一つ大事なことですよね。注目してもらえて。

【長坂 委員】
大事なことですね。なんていうか自分たちがそれを持っていって、それこそ行政とかそういうところからも支援していただいて、その寒じめの売り出しの時もみんなで関東まで行って、今でも面白かったなとかそういうのをやっぱり、何かで続けていければいいのかなと。ただ売り出して終わりじゃなくて、またさらに売り出そうとか何か名前をつけて、飲んだり食ったり騒いだりというか、出来るようにやっていけたらもうちょっと活性化するんじゃないかなと。

【八重樫 局長】
何かプラスアルファのものがあればなお一層活性化していくと。わかりました。ありがとうございました。よろしいでしょうか。それでは最後に成田委員からお願いします。

【成田 委員】

幸福という大きなテーマに添った計画なんですけども、私は女性であり、母でありというところで、かいつまんでお話をさせていただきたいと思いますが、まず今の状態がとても幸せだなって、幸せというか、例えば北朝鮮だったりっていうすごい広い目線でみると、今の時点で幸せなんじゃないかなって、単純に思って子どもたちにも好き嫌いとかしてご飯を残したりした時にも、食べれない子がいるんだよっていうところの自覚っていうのをたまに伝えているんですが、そういうところで今の生活が幸せで、それをちゃんと認識した上での幸福っていうところを追求していけばいいんじゃないかなと。あともっと単純なところでお話すると、家族っていうところで、その家族が今幸せかっていうところだったり、というふうに思います。まず前に男女共同参画に出向させていただいた時も核家族っていうのが段々に増えてきているっていうのでも、DV だったり犯罪だったりっていう地域だったり、その家族内のトラブルっていうのが多分数字的に上がってきていると思うんですよ。なのでその核家族のあり方、核家族になっても家族自体のつながりだったりっていうのをしっかりしていくと、小さい犯罪だったりが起きない。あと地域もソーシャルキャピタルっていうところに基づけば地域貢献っていうところが上がっていくんじゃないかなと思いながら話を聞いていました。

あと保育とかの母親目線で考えると、転勤とかで来たお母様方だったり、その地域に住んで子育てをしているお母様方とか、この地域ってつまんないよねっていう話だったりっていうのが、実際私もそうだったので何かできないかなという、そういうきっかけがあって動き出す原動力というか、一人一人が何かしないとっていう意識があれば良い方向につながっていくと思うんですよ。３年目に入るんですけれども、地域で私に出来ることはないかなと考えたときに、本業は写真屋なんですけれども手作りが好きだったので、周りにも手作りしているお母さん方がいたので、そのお母さん方でグループを作ったんですよ。手作りで久慈市を盛り上げる団体の tette（てって）っていうのを作ったんですけども、その活動が３年目に入るところなんですけれども、やっぱりそういう活動をするに当たって、一人一人意識が高くなって地域を巻き込んだ活動っていうところがやっぱり少し幸福につながっていくんじゃないかなと。あとコミュニティ作り。女性の人ってしゃべるのが好きなので悩みとかっていうのはあらかたしゃべってしまうと８割９割解決してしまうんですよ。っていうのもあるので女性のコミュニティ作りっていうのが大事なんじゃないかなって個人的に思っていました。他の地域だと女性の百人会議を行っている地域もあるみたいなんですけれども、ぜひそういうところを実践して悩みだったり、こういうふうなのがあればいいねという要望とかを出して、それを実現に向けるとそこの地域が住み良くなるんじゃないかなと思います。私も人生の半分に差し掛かってきていて、今年で青年会議所を卒業するのですが、やっぱり幸せ、後世につながる幸せだったり、自分の現状の幸せよりもやっぱり後世の幸せっていうものをちょっと考えたりもしていました。

【八重樫 局長】
子どもたちの幸せということですか。

【成田 委員】
子どもたちだったり、その地域がどういうふうになっていけばいいのかなっていうところです。その地域を盛り上げるっていうのが自分としての使命かなとか思ったりするのでそういうことも考えます。あと地域の財産もそこでしかできないものっていう技術だったり、産業だったりっていうのがあるのでそこに特化した産業だったり、就職というか、水産業とかだと思うんですけれども、そこの技術っていうのは他の地域では真似できないもの、そういうところをしっかり周知して、Uターン就職につなげるというか、流出した若い人達にここの地域でしかできないことなんだよっていうところをちゃんと伝えて、都会にはないものというか、財産、自然の財産だったりっていうのを良い方向につなげていければなと思っていました。以上となります。

【八重樫 局長】
地域の財産・技術というとこに注目しているのは何かありますか。

【成田 委員】
本業とはまた別のことなんですけれども、私は琥珀のアクセサリーを作っているんですよ。そういうところもつながって商工会の方から琥珀も本当の原石で作る琥珀っていうのは久慈琥珀だったり上山琥珀だったりっていう本業があるので、そこのカスといいますか、もう処分しちゃうような屑をどうにかできないかっていうところで、商工会さんからお話をもらってそこからちょっと何か作ろうかというのは何点かあるんですけど、そういうとこにつなげたりとか。まず考えてたのが琥珀だったり、財産だったりですね。

【八重樫 局長】
子育てグループとかコミュニティグループの形成とかっていうのも非常に大事なことということですね。

【工藤 二戸保健福祉環境センター所長】
そうですね。直接的にグループを作るのに振興局の方で支援するというのは直接的にはないですね。やはり市町村レベルで、例えばその地域の人で集まったらその中にやっぱり子育てとかで集まったお母さんたちのグループっていうのは、二戸でも例えば一戸町にもあり、そういう活動をしていくのであれば周知しています。ただ私どもの子育て支援は広く薄くという形で、色んな販売店だったりお店に行った時、子連れのお母さんが安心して買い物ができるようにするとか、そういう部分で応援の店といった制度はやっている。あ

とは色々な企業さんの協力をいただいて、色んな子育てサポートをしている企業の認証制度とかそういった部分はあるんですが、グループを作ることへの支援っていうのは、今のところは振興局ではやっていないのが正直なところですね。

【八重樫 局長】

その重要性っていうのは成田さんのおっしゃった部分ですね。

【成田 委員】

自発的な行動っていうのは多分、一般市民とかに任せればいいと思うんですよ。

【工藤 二戸保健福祉環境センター所長】

あとは場所とかですよね。集まる場所とかの提供というそういったところで、例えば行政の支援だったり、何かの取組をしているところをまとめたりとかっていう、そういったところの支援があればいいのかなって気がします。

【小野 政策監】

今お話があった家族ということで、シートの 16 ですね。昨年、平成 28 年に調査したところにやはり家族関係が非常に重要ということで、先の健康に続いたものですが、そこも幸福を考える上でどんな取組がいいのかこれから考えていただければいいと考えております。

今グループ作りという言葉が出ましたが、確かに、中々家族関係で今県の取組でやっていることに何があるか考えてみるとあまり実はそこは家族のいわゆるプライベートなところで、今の県民計画のアクションプランの中で見ると先ほどお話があった DV の対策でありますとか、そういったところが中心になっています。あとは家族の健康とかそういったところが関係してくると思うんですけれども、じゃあこれから 10 年で考えた時にそういう人口減少とか高齢化とかそういう中で家族関係、あるいは家族を大切にするために県だけではないと思うんですけれども、どういう取組が必要なのか。よく自助、共助、公助という話があると思うんですけれども、今成田委員がおっしゃったようにそれぞれで自分たちでできるところは何なのか。自分でできることは何なのか。家族でできることは何なのか。コミュニティでできることは何なのか。なかなかそういうのは、もしかすると市かもしれない、県かもしれない、国かもしれない、あるいは企業かもしれない。NPO とかが横から色々活動をすることもあるかもしれないという色んな取組があると思うんです。ただ、まずは何が必要なんだろうというところを議論したい。その中でじゃあ県は何をすればいいのか、県の立場からすると、そういうことを考える必要があると思います。次の総合計画までの幸福感、幸福の部分で考えると当然これは幸福について行政がですね、なんか予算の中からお金を出してやれば幸福がただ上がるってのは、それは多分行政の思い上がりであって、

そんなことではないと思うんです。そこにそれぞれ一人一人、あるいは地域とか家族とかそれがどんどん何か幸福を考える上で重要なのかと考えるために、計画づくりのプロセスの中で考えるきっかけになればいい。先ほどのアンケートのところに書いていただいている中にも色々思われることも多いと思いますので、それに加えてそういう考えで色んな議論がある中で、行政は何をすべきなのかっていうところについてしっかり考えたい思います。

【八重樫 局長】

よろしいでしょうか。まだ若干時間があります。今の総合計画、あるいはあらかじめお渡ししております資料２、前回の会議に対する対応状況を記載している資料３、これらに対してでも結構ですので、何か御意見等ございましたらお願いしたいと思います。

【間 委員】

先ほどはざっくばらんに言いすぎましたので、幸福感について少しお話しさせていただければと思います。私は、障がい者就労支援という仕事とそれからサロンというお年寄りが勝手に集まる場所をということで携わっております。それでよくそのサロンを通じて話をされます。誰がいつ来てもいいんですよ、いつ帰ってもいい。そのおばあちゃんに、私はちょっといじわるな質問で、例えばで聞きましたけど、今日何で来たと。よく来たね、ここは何で来たの。いや、誰かと会えると思って来たと。この言葉が一番です。それからスタッフ、もちろんお金を払いますので。幸い会社を退職なさった方々で、看護士さん、それから保育士さんなど色々います。その方々はどっかに行って働けばいいものを、おらは疲れて８時間いる所には行きたくない。来たいときに来る。帰りたい時に帰る。そういう人が集まる。勝手に。そして自分が何か家で作ったものがあれば、俺は今日多く作りすぎたから持ってきた。そんな調子である。もらい過ぎたお菓子を持ってきた。私は、それが非常に嬉しいなと、そこでよく幸福感って感じる。あとは、あるおばあちゃんが、今そこそこ満足していて幸福だ。その中でも満足しているのってこのへん。何かやりたいなって思えばつまんなくて不満がでる。おめえも何か体を動かせ。面白い話をしてくれたと思って。それを聞くのがまた楽しみなんです。

それからボランティアの方が来て、ボランティアって言うな。勝手に来たんだべ。そうだ。おれ家に居ても飽きてしまって。だから来てって言えば来て、勝手に誰か気に入った人と話しをして帰って、休んでください。で、私はそういう場所を満足に作りたいなと思っています。私の勝手な考えは、私が不動産というか貸し宿をやってましたので、このご時世ですから、以前は事務所に貸してあったところが空いてしまったんですよね。ほっとけばもったいないと思って、やっぱりそれを使えということがきっかけです。好きに使っていいが、その代わり柱や壁とかは勝手に壊すな、あとは適当に使ってください。電気料とか水道料は払ってくださいということで、200 円とかもらってやっている。ですから私は

そういう場所があったならば、誰か使いたい人がいたら貸しなさいという話をしている。借りたい人、貸したい人をマッチング作業をやっている。私に言わせれば勝手ですけどね。その話で言えばそんな話をしたりしてるから。まあそこらへんがちょっと嬉しいなと。

色々お話があり、この前テレビでやってましたけども、人は、来てくださいと言えば意外と来ないんですよね。どっかの棚田で稲刈りをやらせてもらったという話があり、あれは何で来るんでしょうね、みなさん都会から。そんな思いがあります。

それからあるところでいえば、薪割り体験を今の子どもは知らないと。薪割りをさせてくださいとか。そんな格好のところにもそこそこ関わったりしています。今の親御さん達は、子どもさんに、自分が子どもの頃にやったことを懐かしがって経験させたい。ただその場所がない。ただそれに対して安全で、やるには安全が大切ですから、そういうふうなものを教える人がいれば良いな。じゃあ勝手に来てください。そういうふうなことからこうやって人が集まればいいんじゃないかなと。

それで先ほど大崎さんですかね、埼玉にいらっしゃった。この話を聞いてなるほどと思い出したんですが、あそこもとかく、都会のそばですから、都会に組み込まれてしまうような街でしたね。あの時に確か、都会に組み込まれて影が薄くなるからあるものをなんか活用しましょうと。それが何か街並みの始まりだったなというような。そんなことをですね、そういえばそうだったなと思ったりして。

最後に幸福感っていうのは先が見えて、希望が出れば私はそれでいいんじゃないかなと。ここには大沢さんいらっしゃいますね。昔から久慈とか二戸地方はファッション関係にはすごい技術の高い所ですよね。私はなんか連携ができたみたいですから、ぜひそういったことをしてファッションショーとかそういうのを企画してもらいたいなと思います。それから十文字社長さんもいらっしゃるみたいですから、ぜひ十文字さんで、企業内保育所を作ってください。

それから病後預かり。子どもさんが風邪を引いた場合はお母さんとか会社を休まないといけない。ですから先ほど話した勝手に来てくださいということで、看護士さん居ます、保育士さんいます、もちろん保母さんもいますので安心感があります。ですから拾ってください。見てあげます。悪いと思ったら 500 円を一つビンに入れて下さい。そういうことで結構来ます。ですから、私は夢を持てばやる気が出てくると思いますので。昔、大ほら吹き大会をした経験から夢を持たせたい。それが活性化につながっていくというような考えだと思っております。長くなりました。終わります。

【八重樫 局長】

希望が見えてくればということですよね。お話がありましたファッションショーは、昨年度までは二戸で開催だったんですけれども今年度は久慈で開催ということです。

【間 委員】
　できれば組んでやってほしいです。あっちこっちではなく。そうすれば連結してくる。当番というと、いつの間にかあっちがやれば、仕方がなくこうやって、というようになる。そうではなくて両方でやってもらいたい。

【八重樫 局長】
　アパレル振興会全体としてやれると思いますけどね。久慈・二戸開催についてはですね。あとは十文字委員のところに企業内保育所のお話がありましたけれども人数ってのは結構あるんですか。

【十文字 委員】
　同業者さんでどちらかの会社さんが去年あたり作ったという話はありました。具体的には一関のオヤマさんだったように思います。うちでも新たに人を雇用しなければならないというので議論はしています。今のところは東北中心になんとか集まっているので、今のところはまだです。そこでやるとかなりお子さんを集めなければならない。

４　その他

【八重樫 局長】
　その他ですが、計画等について何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。もし何かありましたら広域局に御連絡いただければと思います。本日貴重な御意見をいただきありがとうございました。いただいた意見は次期総合計画策定の参考とさせていただきますので、今後とも御指導よろしくお願いしたいと存じます。それでは以上で議事を終了させていただきます。

５　閉会

【和山 参事兼経営企画部長】
　それでは、これをもちまして、平成 29 年度第２回地域運営委員会議を終了させていただきます。
　本日はどうもありがとうございました。